

2008年10月28日

松岡 俊二

## IR3S・WISPJ マクロ班・第3回研究会メモ

2008年10月27日(月)、18:40-21:00、アジア太平洋研究科・応接室

出席：吉田、瀬川、太田、中村、栗田、松岡、院生3名(第1報告時のみ)

栗田報告：新聞記事にみる温暖化報道の差異と環境意識：日中韓の分析

瀬川報告：地球温暖化報道を問い直す：日本の新聞社説の言説分析を通じて

(以下、松岡よりマクロ班の報告書(書籍)の第2次案)

### 1. タイトル案

IR3S 早稲田大学 WISPJ マクロ班：「温暖化問題への政治的意思決定とジャーナリズム」

タイトル案1 「気候変動問題に対する政治的意思決定とジャーナリズム」

案2 「温暖化問題への政治的意思決定とジャーナリズム」

### 2. 目次

第1章 気候変動問題の政治的意思決定とジャーナリズム：課題と方法

研究の目的と意義、仮説と方法、特徴などを書く。松岡担当？

科学的評価→ジャーナリズム・マスコミの報道(情報)→人々の意識(世論)→社会的  
行為・行動→ガバナンス(政府・企業・市民社会)→政策決定・政治的意思決定←社会経  
済状況・社会的制度

第2章 気候変動政策と国際政治

太田

○ 企画案-1: 気候変動政策における G8 サミットの意義と役割

× 企画案-2: 気候変動緩和レジームとオゾン層保護レジーム間の相互関連の研究

△ 企画案-3: 日米の気候変動政策にみる国益と「地球益」

\*\* (温暖化に関する国内政治の分析：太田)??

第3章 気候変動政策と EU

中村

気候変動レジーム形成における EU のリーダーシップ：削減目標設定と排出量取引制度  
(ETS) の意義

#### 第4章 地球温暖化報道を問い直す：日本の新聞社説の言説分析を通じて

瀬川

日本のジャーナリズム（新聞）における長期的視点、総合的視点、科学的視点の欠如  
日本経済新聞の社説の先進性？

#### 第5章 新聞記事にみる温暖化報道の差異と環境意識：日中韓の分析

栗田

仮説設定：新聞報道と環境意識：日・中・韓・(タイ)の比較の意味

#### 第6章 気候変動政策の政治経済学

松岡

地球温暖化問題の政治経済学（環境経済学）

#### 第7章 日本の気候変動政策と行政過程

吉田

わが国の温暖化対策に関わる行政過程の分析：わが国の国内対策の進捗をどう評価すべきか

#### 第8章 気候変動政策の形成と政治的意思決定とジャーナリズムの役割

本研究から得られた成果の確認と今後の課題などを書く。松岡担当？

### 3. 日程について

(6/20 第1回研究会)

(7/30 第2回研究会)

(10/27 第3回研究会：瀬川+栗田)

次回の予定：12月20日（土）13:00-18:00：第4回研究会：全員報告 at 早稲田

2009年

2月頃 第5回研究会

3月末 原稿